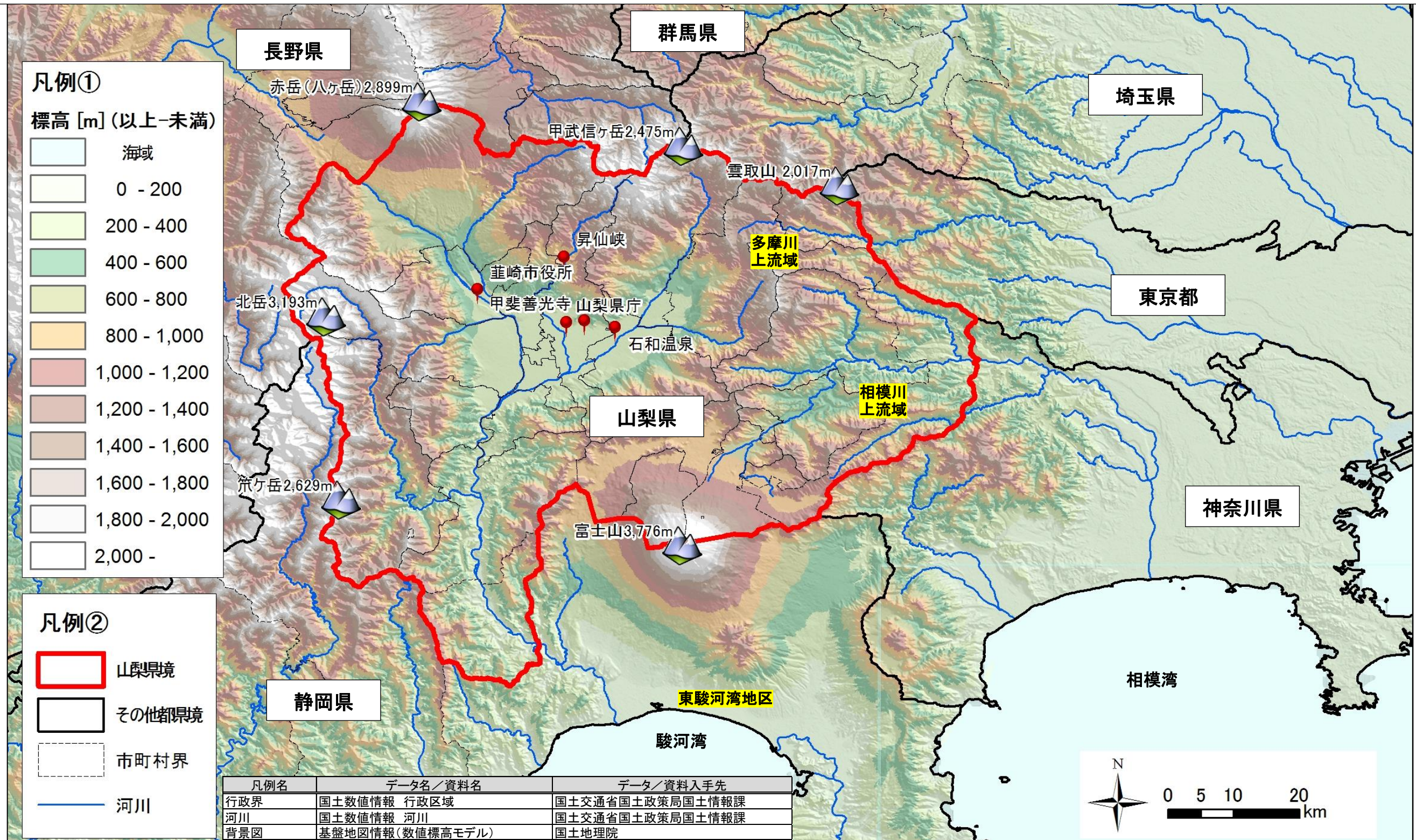


図②：水がめとしての山梨県

甲府盆地には、釜無川および笛吹川の河川水と盆地の地下を流れる地下水があり、人々の生活や産業に利用される貴重な水資源となっている。釜無川は笛吹川と合流したのち富士川と名前を変えて静岡県を流下し、周辺の地下水とともに、主に東駿河湾地区の工業用水等として利用されている。山梨県内全体に視点を広げると、多摩川や相模川などの河川の上流域は山梨県内に位置し、山梨県はそれぞれの河川の重要な水源となっている。

このことから、本マップは、住民の方々に、流域における水循環や山梨県の地下水の重要性を理解して頂く図としての利活用が想定される。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平 28 情使、第 6 号)」

注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。

図1 甲府盆地から駿河湾にいたる富士川流域の概要



富士川水系は、その源を山梨、長野県境の南アルプス鋸岳^A付近に発し、**甲府盆地^B**を南流したあと、秩父山地を源とする笛吹川^Cを合わせ駿河湾^Dに注ぐ。流域の大部分は急峻な山地であり、平地は**甲府盆地^B**に集中する。この**甲府盆地^B**は数多くの扇状地と氾濫平野によって構成されている。

(国土交通省 HP「富士川流域の概要」)

富士川流域は、**水道用水および工業用水の多くを地下水に依存している**。山梨県内では水道用水の約6割、工業用水の約8割が地下水を水源としている。地下水への依存度をみると、山梨県および静岡県が高く、特に山梨県の工業用水や静岡県の水道用水の依存率が高い。

※富士川水流域市町村の集計 (H11 年度値)
(国土交通省 HP「富士川流域の概要」より作成)

図2 地下水への依存率が高い富士川流域

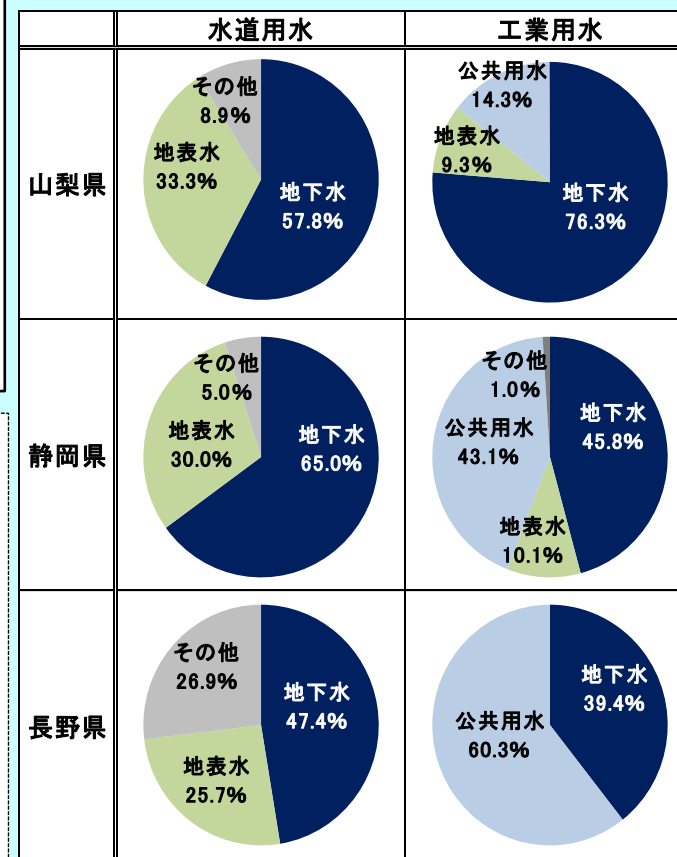
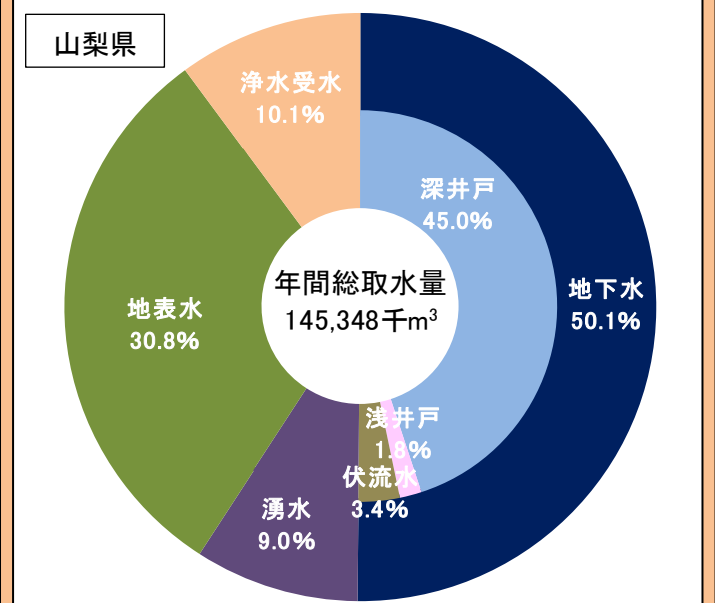


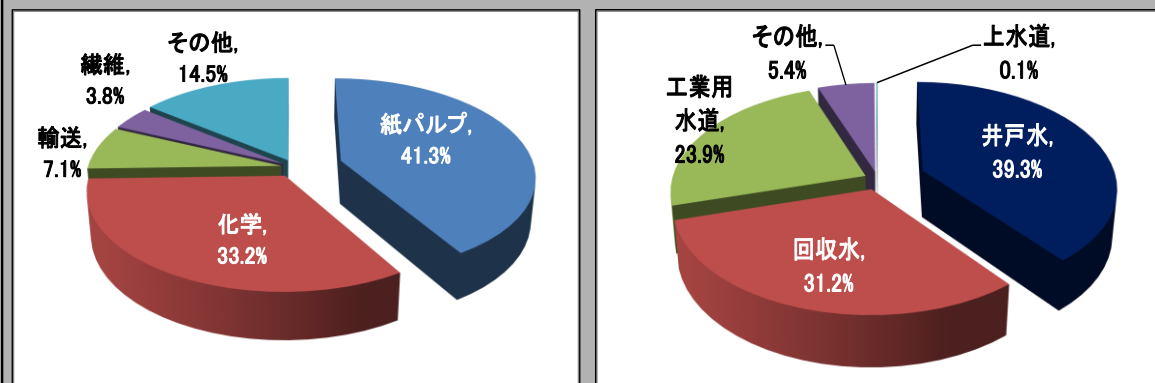
図3 地下水への依存率が50%超の山梨県の水源地



山梨県内の水道水源では、**地下水が占める割合が半分を超える**。また、**湧水も含めるとおよそ6割**を占める。

(「山梨県の水道(平成25年度版)」山梨県福祉保健部)

図4 地下水への依存が高い工業地域「東駿河湾地区」



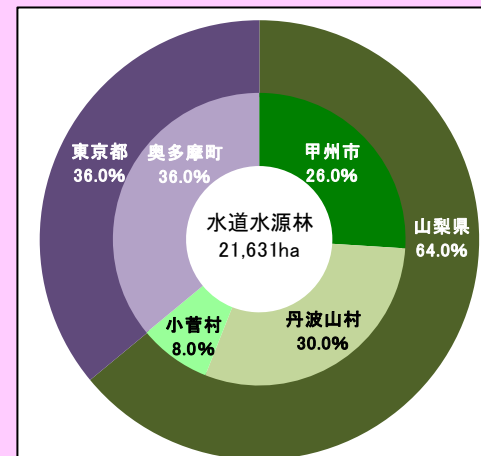
東駿河湾地区における事業種別**淡水使用量**の割合

東駿河湾地区における紙パルプ工業の**利用水源**割合

富士川下流に位置する、我が国の代表的な工業地域である東駿河地区では、「**紙パルプ工業**」が**全淡水使用量の4割**を占めている。「紙パルプ工業」の利用水源をみると、「**井戸水(地下水)**」が最も使われており、**全体の4割**を占める。

(「工業統計調査」経済産業省 HP より作成)

図5 多摩川流域の水源地林面積



多摩川流域の水源地林は、**山梨県が6割強**を占める。その中でも甲府盆地東部に位置する甲州市は尾根をはさんで多摩川流域も含み、多摩川流域の水源地林の**1/4**を占めている。

(「水源地林」東京都水道局より作成)

■甲府地域の特徴

- ・ 甲府盆地は富士川流域の、山梨県は多摩川流域および相模川流域の「水がめ」となっている
- ・ 山梨県では、水道用水の約60%、工業用水の約75%を地下水に依存している

■図面の利活用

- ・ 「水がめ」、「源流域」、「水源」等をキーワードに、山梨県の水の認知度を高めるための基礎資料として利用できないか
- ・ 「水循環基本計画」の枠組みで述べられている「流域連携の推進等」を行う上での基礎資料として利活用できないか
- ・ 流域連携が考えられる地域は、富士川流域、多摩川流域、相模川流域などが挙げられる
- ・ 「水源地ツアー」や「源流域ツアー」など観光産業の掘り起しに利活用できないか